

本日の議論と今後の進め方について

2023年 1月 30日
広域系統整備委員会
コスト等検証小委員会事務局

- 第23回 (22/8/29) 及び第24回 (22/9/7) 委員会において、電源開発送変電ネットワーク(株) (以下「電源開発NW」という。) より工事費増額に至った理由等について説明があり、設計実施能力、契約等プロセス、管理・責任能力の検証につながる問題点について、委員より多くのご指摘をいただいた (次スライド参照) 。
- 本日は、工事費の増額に至った経緯をより客観化するため、事務局による電源開発NW本社での聴取やエビデンス等の確認に加え、メール等での資料請求など、数次繰り返し確認を行ってきた結果についてご報告し、ご意見をいただきたい。
- なお、本日いただいたご指摘を踏まえて、必要に応じて改めて電源開発NWへ聴取等を行い、次回改めて事務局において確認結果を報告したい。
- また、電源開発NWより、一般送配電事業者からのコスト削減策の提案に対する先行工区での検討状況をご報告いただく。なお、更なるコスト削減策も電源開発NWにおいて検討中であるため、本日は途中経過としてご報告いただく。

- 第23回・第24回委員会において、工事費増額の要因とコスト低減の可能性に関する議論のほか、なぜコスト小委後に突然増額が判明したのか、実施案の設計が甘かったのではないかと、予報発注前に地質調査の反映など詳細仕様を決定できたのではないかと、地質調査が終わっていたコスト小委の段階で工事費増額は分かっていたのではないかと、といった指摘があった。
- これらの指摘の問題は、それぞれ事業実施主体としての設計実施能力の有無、契約等のプロセスの落ち度、管理・責任能力に対する疑義と考えられる。

<疑問点1>

結果的に増額となった地質調査後の増額が本当に実施案時点で精度向上できなかったのか

⇒ 既設ルートでの知見を活用できていたのか

設計実施能力

⇒ 積算の方法に甘さが無かったか

設計実施能力

<疑問点2>

2018年度から順次地質調査を行う中で、実施案の想定との乖離が分かっていたのではないかと

⇒ 調査が終わった地点から順次反映することで実施案の想定との乖離を早期に把握できたのではないかと。また、地質調査結果をもとにした詳細な仕様を、順次反映することで予報発注での競争性を高めることができたのではないかと

契約等のプロセス

管理・責任能力

<疑問点3>

コスト検証小委員会での検討時に工事の増額が分かっていたのではないかと

⇒ 早い段階で報告することにより、工事着工前にコスト削減の検討などに着手できたのではないかと

管理・責任能力

■ 今後、2月・3月に本委員会を開催し、計画全体としての現時点での工事費を算定する。あわせて、今回の検証結果を取りまとめ、電源開発NWへの指摘事項と今後の計画実施に関するプロジェクト管理の対応について整理したい。

		2022年度			2023年度	
		1月	2月	3月	4月	5月以降
委員会	コスト等検証 小委員会	◆ 第28回	◆ 第29回	◆ 第30回		
	広域系統整備 委員会	進捗報告	◆ 第66回	◆ 第67回		
備考		整備計画の変更 (必要に応じて)				

主な審議事項	
第28回 コスト小委	<ul style="list-style-type: none"> 設計・契約等プロセスに関する検証について 先行工区におけるコスト削減策の反映について
第29回 コスト小委	<ul style="list-style-type: none"> 全工区でのコスト削減方法について 佐久間東幹線の工事費の見直しについて 設計・契約等プロセスに関する検証について（管理責任の観点を含む）
第30回 コスト小委	<ul style="list-style-type: none"> 全工区での検証を踏まえた工事費について 検証のまとめ（今後の継続的な確認の仕組みを含む）